アクセシビリティ

WAIの活動と国内の動向-NAPの発足

アクセシビリティの持つ意味

アクセシビリティ(accessibility)とは、 誰もが同じように利用することができる製品・システムなどを作るという、広い分野で考慮されている考え方である。パーソナル・コンピュータのアクセシビリティに関しては、MS-DOSが普及し始めた頃より以前から、障害者のコンピュータ利用を促進するための取り組みがなされてきた。これは、コンピュータを利用できることが、障害者の社会生活を向上させていく上で重要であることが、早くから認識されてきたからである。

たとえば、印刷媒体からの情報取得が 困難な視覚障害者や放送媒体からの情報 取得が困難な聴覚障害者にとって、電子 的な形でやりとりされる情報がもたらす情 報量は計り知れない。また、移動に制約を 受けているなどの理由でコミュニケーションが困難な肢体不自由者に対して、コン ピュータは新たなコミュニケーションの手段 を提供している。そして、インターネットの 利用者が増加した今日、コンピュータやインターネット上で提供されている情報が、こ のような障害を持つ人々にも利用できる ことは、ますます大きな意味を持ってきている。

特に欧米においては、インターネットのアクセシビリティを保証して行くことに対する関心が高く、アメリカではアメリカ障害者法・電気通信法やリハビリテーション法などの連邦法に基づいて、インターネットのアクセシビリティを障害者に対して保証することを義務づける動きが活発になっている。

WAIの活動

増え続けるインターネット上の情報のアクセシビリティに対する関心の増大を受けて、1997年4月、World Wide Web Consortium (W3C) は Web Accessibility Initiative (WAI)というプロジェクトを開始し、WWWのアクセシビリティを向上させるための活動を行っている。WAIの活動内容は、大

きく以下の5部門に分けられる。

- 1. W3C が策定するWWW関連技術の仕様 をアクセシビリティに配慮したものにする。
- WWWのアクセシビリティを向上させ保証するために必要なWWWページ作成・ブラウザ開発およびオーサリングツール開発のためのガイドラインの作成。
- 3. アクセシビリティの必要性やアクセシビ リティの高いWebサイト作成のため の方法などの教育・啓蒙活動。
- 4. Webサイトのアクセシビリティの評価 や、アクセシビリティの高いWebサイト 実現のために必要なツールの開発。
- 5. WWWのアクセシビリティに今後影響を 与える可能性のある技術に関する研 究・開発活動の把握。

WAIの活動において注目すべき点は、W3Cの作成する仕様に関する議論に多くの障害者やそのサポートを行っている人々、さらにはアクセシビリティに関しての研究を行っている専門家なども参加している点である。これまでは、彼らが発言する機会が少ない中で仕様の作成が行われてきたため、仕様が確定した後にアクセシビリティに関する問題点が指摘されるような場合も多かった訳だが、このような形で障害者も仕様策定に参加することによって、初めからアクセシビリティが考慮されたものを作ることができる。

設立2年目となる1998年中にも、WAI は積極的な活動を行った。教育・啓蒙活動の分野では、アクセシビリティに関する情報を広く提供するための資料の作成などが行われた。また、各種ガイドラインの策定作業も積極的に推進され、1999年5月には、Webページ作成者向けのガイドラインであるWeb Content Accessibility Guidelines1.0がW3C勧告として発表された。このガイドラインは、これまで発表されてきたアクセシビリティ関連のガイドラインと比較して、より包括的・実用的かつ技術的にもしっかりとしたものとなっている。

また、この分野で活動している多くの人が このガイドラインの策定にたずさわってお り、その意味ではこの分野で最も権威あ る文書であると言える。

国内の動向

一方、日本国内においてもアクセシビリ ティに対する関心は年々高まってきており、 この分野における研究や開発も活発に なってきている。また、障害者のコンピュー タ利用をサポートする、パソコンボランティ アと呼ばれる活動も盛んとなり、各地に広 まりを見せている。このような中で、1998年 11月、筆者を中心に発足したNetwork Accessibility Project (NAP) は、研究 者・開発者・利用者といった枠組みや障害 の種別を越えた形での協調により、コン ピュータネットワークのアクセシビリティ向上 のための活動を進めようとしている。これ まで、必ずしも十分な協調体制がなかった だけに、今後このような場を中心とした協 調によって、より実効ある結果がもたらされ ることが期待される。

(中根雅文 慶應義塾大学)

参考URL

W3C/WAI

http://www.w3.org/WAI/ Network Accessibility Project (NAP)

http://www.accessibility.org/



W3Cのホームページ



「インターネット白書ARCHIVES」ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年~2012年までに発行したインターネット の年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以 下のウェブサイトで公開しているものです。

http://IWParchives.jp/

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- ●記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- ●収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の 著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- ●著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- ●このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくま で個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- ●収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名お よび年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記くだ さい。
- ●オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D (初期は株式会社インプレス)と 著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全 に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的 な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D | 🖂 iwp-info@impress.co.jp

©1996-2012 Impress R&D, All rights reserved.